

[資料]

本学看護学部における高齢者を対象とした
生涯学習への貢献
—タイ国サイアム大学との共同研究に関する報告 第3報—
Contribution to Lifelong Learning for the Elderly
in Faculty of Nursing at Aomori Chuo Gakuin University
— Joint Research with Siam University in Thailand: Third Report —

菊池 美智子、三國 裕子、中川 孝子、坂井 哲博、一戸 とも子
KIKUCHI Michiko^a, MIKUNI Yuko^a, NAKAGAWA Takako^a,
SAKAI Tetsuhiro^a, ICHINOHE Tomoko^a

a 青森中央学院大学看護学部

1. はじめに

アジア諸国における2020年の高齢化率(総人口に占める65歳以上の者の割合)をみると、日本(28.6%)、韓国(15.8%)、シンガポール(13.4%)、タイ(13.0%)、中国(12.0%)の順であるが、2040年には日本(35.3%)、韓国(32.9%)、シンガポール(29.1%)、タイ(26.2%)、中国(23.7%)になることが見込まれている¹⁾。現在、高齢化率が10%代の国においても、将来確実に高齢社会に向かうと予測されている。本学看護学部のワーキンググループは、2018年からタイ国サイアム大学看護学部(以下、サイアム大学)との学術交流のひとつとして、高齢化社会に着目して共同研究を進めている。今後、タイ国との比較を目指して、これまでの検討内容を、第1報では「日本における高齢社会の現状について」、第2報ではCOVID-19のパンデミックに伴い「日本の高齢者のCOVID-19に関する状況と支援」として報告した。これらの報告を通して、高齢者の健康保持増進の重要性を再確認している。そのためには、高齢者が受け身ではなく、生涯学習の一環として主体的に健康づくりができる支援が一層求められていると考えられる。

このような中で、2019年10月、サイアム大学の教員2名と学生4名が学術交流を目的として本学に来校した際に、両大学の教員・学生間でカンファレンスの機会を設けた。地域の高齢者を対象とした大学の支援・貢献についてのテーマの中で、サイアム大学は高齢者に対する講義の開講(大学内)や、高齢者看護専門の教員が地域に出向いての講義、また、大学近郊の地域で開催されている高齢者を対象とした染色教室等に学生も参加し、地域の高齢者との交流を図っているとの情報を得た。それをきっかけに、本学の看護教員が地域の高齢者へ地域貢献としてどのような活動を行っているか、今後サイアム大学と比較して双方の活動から示唆を得るために、まず、本学の活動を第3報として報告することとした。

なお、我が国において教員による高齢者を対象とした活動は、一般的に生涯学習の理念に基づいていることから、本稿では、日本の高齢社会対策の一環である「高齢者を対象とした生涯学習支援」について、我が国の特徴と思われる「政策に基づく生涯学習支援の推進」と、その中で大学等の高等教育機関に求められている役割を概観し、本学看護学部における高齢者を対象とした生涯学習への貢献について報告する。

2. 我が国における超高齢社会に関する生涯学習 ー政策に基づいた生涯学習支援ー

我が国の65歳以上の高齢者の割合が人口の14%を超え、「高齢社会」に突入した平成7（1995）年11月、高齢社会対策を総合的に推進するための「高齢社会対策基本法」が成立した。これは、経済社会の健全な発展と国民生活の安定向上を図ることを目的に、「公正で活力ある社会」「地域社会が自立と連帯の精神に立脚して形成される社会」「豊かな社会」が構築されることを基本理念として、国を挙げて高齢社会対策の推進を打ち出したものである²⁾。この「高齢社会対策基本法」においては、「就業及び所得」「健康及び福祉」「学習及び社会参加」「生活環境」等について、国が講ずべき基本的施策が規定されている。この中の「健康及び福祉」では、国民が自らの健康の保持増進に努めることができるよう総合的な施策を講ずることや、地域における保健及び医療ならびに福祉の相互の有機的な連携を図りつつ適正な医療保健サービス及び福祉サービスを総合的に提供する体制の整備を図ること、適切な介護のサービスを受けることができる基盤の整備を推進することが打ち出された。

さらに高齢化率が21%を越え、「超高齢社会」を迎えた平成23（2011）年、文部科学省生涯学習政策局社会教育課に「超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会」が設置された。この検討会の中で、長寿社会にふさわしい新しい高齢者観や価値観を広げるのが生涯学習の大きな役割の一つであることが提言された³⁾。また、高齢者の生涯学習における学習内容及び方法の工夫・充実の一方策として、高度化・多様化する高齢者の学習ニーズに的確に対応できるよう、大学や専門学校などの高等教育機関をはじめとした多様な学習機関と相互に連携し、専門的かつ高度な『人財』や施設設備などの学習資源を有効に活用できる仕組みづくりが求められた⁴⁾。

高等教育機関による公開講座開設大学数・公開講座開設数の推移⁵⁾をみると、平成4（1992）年度は339大学・3,933講座であったが、平成20（2008）年度では684大学・25,411講座、平成28（2016）年度では742大学・32,690講座となっており、それらの増加に準じて公開講座受講者数も増加している（図1・図2）。これは高齢者を対象とした公開講座に限定されているものではないが、実施された講座の内容は、人文教養系、語学系、育児・医療・福祉系の3分野で全体の6割近くを占めていること、また、人気が高かったのは、人文教養系、育児・医療・福祉系、芸術系、社会問題系、地域課題解決系などの分野であったことから、超高齢社会の生涯学習支援の対応策としても、大学が国や自治体との協働のもと、公開講座の開講を推進した背景がうかがわれる。

また、我が国の高齢者に対する生涯学習を概観するにあたり、諸外国の高齢者に対する生涯学習についてもいくつかの文献レビューを行った^{9)~11)}。教育制度や文化、宗教、国民性、経済状況等の条件により、諸国・諸地域の生涯学習のあり方には特徴がみられるものの、生涯学習を提供・支援する組織と、国民が自主的かつ意欲的に学ぶ姿勢が両輪となって生涯学習が推進されているという点は共通であった。

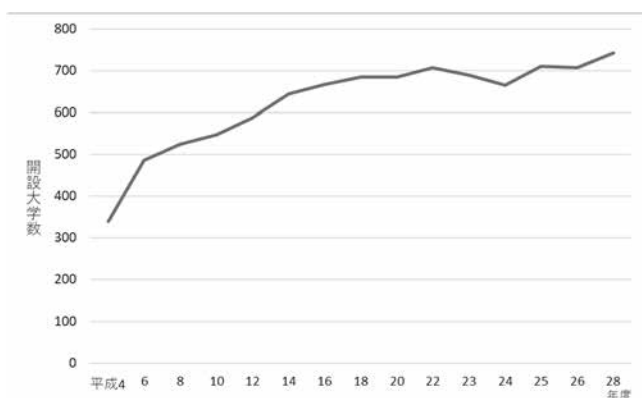


図1 公開講座を開設する大学数の推移
 (出典) リベルタスコンサルティング「平成29年度開かれた大学づくりに関する調査研究【調査報告書】」(平成30年3月)P.22「【公開講座開設状況の変遷】」の図を基に筆者作成

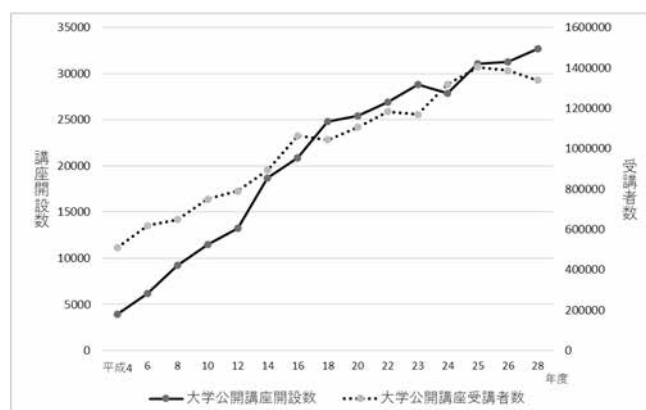


図2 大学の公開講座受講者及び公開講座開設数の推移
 (単位:受講者数(人)、開設数(件))
 (出典) 図1に同じ

3. 青森田中学園における地域社会活動への取り組みと推移

1) 地域社会活動の始まりと地域連携センターの設置

本学は広く社会に開かれた大学として、地域社会活動委員会が中心となり、地域社会において様々な形で活動を行っている¹²⁾。地域の方々を対象とした公開講座は、平成10(1998)年度に青森中央学院大学経営法学部の開学時から本学を会場に開催されている。以後、「出前講座(講師派遣事業)」「国際語学サポートセンター」「公開講座・ビジネスセミナー」「社会人聴講生・科目等履修生制度」「大学院地域マネジメント研究科・社会人受入れ」「図書館などの施設開放」などの多様なプログラムを提供している。

そして、平成26(2014)年度に青森中央短期大学看護学科の改組転換により看護学部が誕生した。同年に青森中央学院大学の母体である青森田中学園が、学園設置校(青森中央学院大学、青森中央短期大学、青森中央文化専門学校、青森中央経理専門学校、認定こども園青森中央短期大学附属幼稚園)と地域との相談窓口の一本化を図るために「地域連携センター」を開設した。地域連携センターは、学内地域連携のコントロールセンターとして学内の研究者の紹介、共同研究、講師派遣、公開講座、地域課題の調査・研究などの地域連携に関する相談、自治体や各種団体、教育機関等との連携に関する窓口対応等、地域の課題解決に積極的に取り組み、地域の知の拠点として、生涯学習を含む地域社会活動の推進に大きく貢献している。

2) 本学看護学部の地域社会活動としての公開講座の推移

本学看護学部は、平成 26 (2014) 年度の開学時から、青森市中心部にあるサテライトキャンパス「FRIENDLY WINDOW」(定員 20 名)において、学部の地域社会活動委員会を中心に看護の専門性を活かして「保健・医療・介護」を中心としたテーマの講座を開催し“生涯学習の場”としての定着を目指した¹³⁾。講座開設の目的について「参加者が講座での学習成果を日常生活に反映させ、健康づくりに取り組み、生きがいをもって活動できるように、看護学部教員の専門性を活かした講座の開催により寄与する」と述べられている¹⁴⁾。

公開講座は、「青森中央学院大学看護学部公開講座(平成 26 年度～28 年度)」「青森中央学院大学まちなかキャンパス・ミニ講座(平成 29 年度～現在)」として開催され、年度ごとに“メインテーマ”を掲げて活動を行っている。開催当初は、「心身の健康を保つための看護の基本」といった、対象者の年代を幅広く捉えたメインテーマとしていたが、受講者には高齢の年代が多かったことから、超高齢社会に鑑み、高齢者がいきいきと暮らして欲しいとの願いを込めメインテーマを変更することとした。受講者のニーズも取り入れ、平成 27 (2015) 年度以降は、「これからの高齢社会をどう生きるか」「超高齢社会を生き抜くための知恵」「健康寿命を延ばす日常生活の工夫」「生き生きシニアライフ」などのように、高齢者および壮年後期の方々に向けたテーマを掲げ、内容の充実を図っている。講師は各領域の教員が持ち回りで担当し、各年度のメインテーマに合わせてそれぞれの講座内容を組み立てている。表 1 は 2018 年度から 2022 年度までの公開講座の内容である。公開講座は年に 5 回開催され、年度末に翌年度の公開講座の年間計画を立案・公表して、参加者の募集を行っている。2022 年度の公開講座のリーフレットを掲載する。

受講者の多くが高齢者であるという特性を踏まえ、講座の内容及び開催方法については、開始当初から一貫して身近でわかりやすい内容を取り入れること、また、座学だけでなく、体験やワーク、軽運動などの実技を取り入れた参加型の講座にすること、休憩を入れながら心身に過度の負担をかけないようにすること等の工夫を行っている。

また、サテライトキャンパスを拠点とした講座の開催は、青森市内の中心街活性化事業の一環として、青森商工会議所と青森地域 5 大学との共催による“産学連携事業—まちなかキャンパス”の位置付けの確立にも貢献した。これに伴い、公開講座の会場を JR 青森駅前にある青森商工会議所「AOMORI STARTUPCENTER」に移動したことで、会場も広くなり、年々増加している受講希望者への対応や、コロナ禍において 3 密を避けた開講が可能となった。

3) 看護学生の公開講座への参加

さらに、令和 3 (2021) 年度からは、看護学部の学生も公開講座に参加している。学生は講師のアシスタントとして講座内でモデル役となって登場したり、保健師教育課程においては、実習の一環として受講者を対象に健康教育や健康チェックを行うなど、受講者と交流しながら学ぶことができたとともに、受講者・学生が互いに学び合う機会となっていた。大学が提供する地域住民の学びの場に大学生が参加することの意義について鎌田¹⁵⁾は、「大

表1 まちなかキャンパス・ミニ公開講座一覧（2018～2022年度）

※看護学部担当分

2018年度

メインテーマ：健康寿命を延ばす日常生活の工夫		会場：FRIENDLY WINDOW	
開催日	テーマ	担当	領域
6月16日	歯っぴーカムカムで生き粋ライフ！	菊池美智子	公衆衛生
9月1日	家庭での怪我や事故などへの対処とAEDの使い方	木村千代子	成人
10月6日	日常生活を快適に！尿漏れと皮膚の手入れのお話	村山志津子	成人
11月17日	動脈と静脈から自分の健康を考えてみませんか？	三國 裕子	基礎
1月19日	フレイルにならないためのロコモチェック	鎌田 明美	公衆衛生

2019年度

メインテーマ：生き粋（いき）健康寿命で人生を楽しむ		会場：FRIENDLY WINDOW	
開催日	テーマ	担当	領域
5月11日	加齢に負けない心の健康	川添 郁夫	精神
6月22日	『光老化』を知り肌の健康を守ろう	花田 勝美	臨床医学
7月20日	フレイルってなに？知識と体操で健康寿命を延ばそう	鎌田 明美	公衆衛生
10月26日	糖尿病を防いでハッピー寿命	三上ふみ子	成人
11月16日	縄文人に学ぶ健康生活のコツ	藤澤 珠織	基礎

2020年度

メインテーマ：日常生活の工夫でこころもからだも健康に		会場：FRIENDLY WINDOW	
開催日	テーマ	担当	領域
10月24日	糖尿病の予防について ～今の生活習慣を見直してみませんか～	三上ふみ子	成人
11月7日	出土人骨から見たあおり縄文人の日常生活	藤澤 珠織	基礎

2021年度

メインテーマ：こころもからだも生き生き健康生活に		会場：AOMORI STARTUPCENTER	
開催日	テーマ	担当	領域
5月29日	日常生活で工夫するこころの健康	川添 郁夫	精神
6月26日	認知症とその生活について ～生活習慣を見直しませんか～	中川 孝子 熊谷和可子	老年
10月9日	からだの変化を理解しよう	坂井 哲博	臨床医学
11月13日	高齢者の社会参加について ～『+C（プラスシー）』で健康寿命をのばそう！～	太田 尚子	公衆衛生

2022年度

メインテーマ：生き生きシニアライフ		会場：AOMORI STARTUPCENTER	
開催日	テーマ	担当	領域
6月18日	認知症の早期発見と予防～生活習慣を見直しませんか～	熊谷和可子	老年
7月16日	老いない骨の作り方	藤澤 珠織	基礎
9月3日	自分らしい最期を考えよう	造田 亮子	地域在宅
10月8日	知っておきたい病気のこと ～青森県の現状と予防のための体作り～	坂井 哲博	臨床医学
11月12日	高齢者の社会参加 ～『+C（プラスシー）』で健康寿命をのばそう！～	太田 尚子	公衆衛生

学生は今後の社会を担う若者として期待され育成される人材」であり「大学生を身近にすることは、高齢者自身に若さと活気を感じさせ、学習意欲を促進させていると考えられる」と述べている。さらに受講者である高齢者については、「大学教育へ協力・参画することは、参加者自身が大学教育に寄与しているという社会的価値を高めている」とも述べている。つまり、高齢者にとっては学生のために役立つという体験は、受講者であるという受け身の立場から、学生のために何らかの協力をしたいという積極的な意識をもたらし、高齢者自身も新しい高齢者観や価値観を広げることになると考えられる。学生にとっては、公開講座の90分間に高齢者と活動しながら交流できることは、座学では学びえない高齢者の心身の状態をより具体的に深く理解できる。このように、本公開講座に学生が参加することは、学生及び高齢者双方にとって意義は大きいものとする。今後も公開講座の場が学生の臨地実習や研修の場となるような活用を期待したい。

まちなかキャンパス公開講座 2022 リーフレット


青森中央学院大学


まちなかキャンパス 公開講座2022



生き生き シニアライフ

参加費
無料

<div style="text-align: center; border: 1px solid #ccc; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #f9f9f9;"> 第1回 2022年6月18日(土) 10:00~11:30 「認知症の早期発見と予防 ～生活習慣を見直しませんか～」 <small>講師/ 青森中央学院大学 看護学部助教(老年看護学) 熊谷和可子</small> </div>	<div style="text-align: center; border: 1px solid #ccc; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #f9f9f9;"> 第2回 2022年7月16日(土) 10:00~11:30 「若い骨の作り方」 <small>講師/ 青森中央学院大学 看護学部准教授(基礎看護学) 藤澤珠織</small> </div>
<div style="text-align: center; border: 1px solid #ccc; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #f9f9f9;"> 第3回 2022年9月3日(土) 10:00~11:30 「自分らしい最期を考えよう」 <small>講師/ 青森中央学院大学 看護学部講師(地域在宅看護学) 遠田亮子</small> </div>	<div style="text-align: center; border: 1px solid #ccc; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #f9f9f9;"> 第4回 2022年10月8日(土) 10:00~11:30 「知っておきたい病気のこと」 <small>講師/ 青森中央学院大学 看護学部教授(臨床医学) 坂井 哲博</small> </div>
<div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #f9f9f9;"> 会場 青森商工会議所1階 AOMORI STARTUP CENTER (青森市新町1-2-18) </div>	
<div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #f9f9f9;"> 対象 一般 定員 20名 </div>	
<div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #f9f9f9;"> 第5回 2022年11月12日(土) 10:00~11:30 「高齢者の社会参加 ～「+C(プラスシー)」で健康寿命をのぼそう!～」 <small>講師/ 青森中央学院大学 看護学部助教(公衆衛生看護学) 太田 尚子</small> </div>	

問い合わせ・申し込み先

青森中央学院大学公開講座担当
TEL(017)728-0131 FAX(017)738-8333
E-mail koukaikouza@aomoricgu.ac.jp
Webサイト https://www.aomoricgu.ac.jp/

主催/青森中央学院大学 地域社会活動委員会 共催/青森商工会議所
 助成/公益財団法人青森学術文化振興財団

お申込方法

①申込フォーム…下記のQRコード(<https://forms.office.com/r/Dnn913nSEs>)を読み取り必要事項をご入力ください。

②メール・お電話…下記お申込先まで。
 お名前/電話番号/参加希望講座をお知らせください。

(申込み用 QR コード)



新型コロナウイルス感染症予防のため、争論にお申し込みの無い方は参加できません。
 当日はマスクの着用をお願いします。また入場時の検温にご協力ください。
 ※ご協力いただきました個人情報は、学校法人青森中央学院個人情報保護方針に基づき、
 本学院の公開講座等の運営・告知以外には、利用しません。



3 子育てに
就業し働き

11 高齢者の健康
増進

17 地域社会の
発展

青森中央学院大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

4. まとめ

本稿では「高齢者を対象とした生涯学習支援」について、我が国の特徴と思われる「政策に基づく生涯学習支援の推進」と、その中で大学等の高等教育機関に求められている役割を概観し、本学看護学部における高齢者を対象とした生涯学習への取り組みについて整理した。本学の地域社会活動の組織体制、看護学部が担当している公開講座の対象およびプログラム（講座の内容）、サテライトキャンパスなどを活用した開催方法、産学連携への波及は、国が示した「長寿社会における生涯学習政策」に応えられる取り組みとなっていた。このような取り組みは、今後さらに求められていると言える。

また、高齢者を対象とした生涯学習は、受講者が公開講座での学びを自らの生活に生かしてもらうことに加え、高齢者の新たな学習をとおした社会参画、地域貢献も推進されている。これは、受講者が講座で学んだことをさらに地域の高齢者に伝達・波及させていくことや、地域における世代間交流を図ることを目的とした活動に積極的に取り組んで欲しいとの願いでもある。大学にはこれらの活動等への支援も期待されている。

5. おわりに

学部開設から9年を迎えた今年度まで、途中コロナ禍により内容を縮小したこともあるが、看護学部の歩みと共に、看護学部の専門性を生かした公開講座を継続して開催することができた。今後は看護学部が担う高齢者を対象とした公開講座のより良いあり方について検討するとともに、サイアム大学との共同研究のテーマとして取り組んでいきたい。

文献

- 1) 内閣府 令和4年版高齢社会白書（全体版）高齢化の国際的動向 :https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/html/zenbun/s1_1_2.html（2022年12月20日閲覧）
- 2) 内閣府 高齢社会対策の基本的枠組み :https://www8.cao.go.jp/kourei/measure/a_3.html（2022年12月20日閲覧）
- 3) 文部科学省・超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会：長寿社会における生涯学習の在り方について～人生100年いくつになっても学ぶ幸せ「幸齢社会」（平成24年3月発行）～，https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/koureisha/1311363.htm（2022年12月20日閲覧）
- 4) 前掲2)
- 5) リベルタスコンサルティング：平成29年度開かれた大学づくりに関する調査研究【調査報告書】（平成30年3月），
https://www.mext.go.jp/content/20200929-mxt_chisui01-100000171_1.pdf
（2023年1月21日閲覧）
- 6) 江澤和雄：「超高齢社会」における高齢者の学習支援の課題，国立国会図書館調査及び立法考査局レファレンス，No.751号，Ⅲ 欧米における高齢者の学習支援の状況，

p20-25, 2013.

http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_8276393_po_075101.pdf?contentNo=1

(2023年1月21日閲覧)

- 7) 間野百子：米国における高齢者の社会参加の意義と促進，東京大学大学院教育学研究科紀要，第42巻，2002.
- 8) 西岡正子：アメリカの高等教育における高齢者教育，佛教大学教育学部論集，01，創刊号，p 80-94，1989.
- 9) 金明姫：韓国における高齢者のための生涯学習の現状と課題，日本生涯教育学会論集，p37，2016.
- 10) 趙天歌：コロナ禍における中国高齢者の生涯学習の展開，早稲田大学大学院教育研究科紀要，別冊30号-1，p35-46，2022.
- 11) 篠崎貴徳：タイにおけるコミュニティ学習センターの実態と役割—北部チェンライ県を対象として，筑波大学図書館情報メディア研究科，筑波大学修士(図書館情報学)学位論文,2018.URl<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/records/49292> (2023年1月21日閲覧)
- 12) 青森中央学院大学・地域社会活動委員会：地域社会活動のご案内，2022.
- 13) 山田皓子・泉美紀子・村山志津子：公開講座活動報告，青森中央学院大学地域マネジメント研究所研究年報，第14号，2018.
- 14) 前掲13)
- 15) 鎌田明美：介護予防トレーニングの参加促進と大学という「場」の特性との関連，2008年度青森県立保健大学大学院修士論文，2009.
- 16) 瀬沼克彰：[21世紀の生涯学習と余暇] 住民が進める生涯学習の方策，株式会社学文社,2009.
- 17) 総務省統計局：世界の統計2022,<https://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.html> (2022年12月20日閲覧)
- 18) 古田康生・小原慶祐・原田理人：岐阜県O市シニアカレッジ受講者の体力とレジャー(余暇)活動との関連—レク式体力測定とレジャー活動内容に焦点をあてて—，岐阜県立大学論文集,53巻3号,p61-69,2020.
- 19) 久保宣子：生涯学習に取り組んでいる高齢者の主観的健康観，八戸学院大学紀要.第55号,p53-58,2017.
- 20) 小塚美由記・村田貴子・白幡亜希 他：地域に根差した高齢者健康づくり教室の役割—新型コロナウイルスによる社会活動自粛期間におけるアンケート調査からの検討—，北海道文教大学研究紀要，第45号,p45-55,2021.